



融雪剤を効果的に使って 春作業に備えましょう！

【指導員】 園芸果樹課 大和屋 尚享

◆今冬は断続的に降雪が続いており、各園地では雪害対策が小まめに行われていますが、一部園地では枝折れが発生している状況です。今後、大雪が予想される場合には、事前に自宅の雪下ろしなどを済ませておき、すぐに園地へ向かえる準備を整えておきましょう。

◆本年のリンゴ花芽分化率について

花芽分化率は60%以上であれば豊作型ですが、管内の28年産「ふじ」の花芽分化率は44～77%と園地によるばらつきが非常に大きくなっています（平鹿地域振興局調査）。さらに、花芽分化率が高くても充実が悪い芽が多い園地もみられるようです。

平成27年産は開花量が多く、結実率も高かったことから摘果作業が遅れ、過着果となつている園地が見受けられました。このような園地で花芽分化率が低い傾向となっています。また、夏場の高温や乾燥も分化率や芽の質に影響しているものと思われま

花芽分化率、芽の質ともに園地間差が大きいため、自園地の状況に合わせて剪定作業を進めましょう。

◆園地を見回り雪害を防ぎましょう

雪による果樹への被害は樹上への冠雪だけでなく、積



樹上への冠雪の様子（増田／1月20日）

もつた雪が沈む「沈降」による被害も大きいので、出来るだけ小まめに園地を見回り、樹上の雪下ろしや雪に埋もれた枝の掘り上げ作業を行いましょう。



枝の掘り上げの様子（増田／1月20日）

また、これまでの雪害で補修した部分は雪に対する強度が弱くなつている事もあるので、優先的に見回りましょう。

◆融雪剤は晴れ間を見て散布

降雪のピークが過ぎ、好天が1日以上続く日を選んで融雪剤を散布しましょう。

散布する際は、園地全体に

薄く均一に散布するようにしてください。遠目でうっすら黒く見える量で十分な効果が得られます。散布後に積雪があつても効果は持続しますが、20%程度積雪が見られたら再度散布しましょう。

融雪剤の使用については、量が少なすぎても多すぎても効果が劣り、多すぎると資材の無駄使いにもなります。各営農センターで取り扱っている融雪剤は「鶏糞炭」（10kg／1袋）648円で、10坪当たり1～2袋の散布が目安です。融雪剤を効果的に使い、春作業に備えましょう。



「鶏糞炭」は肥料ですので、複数回使用して散布量が多くなった場合は、春肥の施用量の調整が必要です。

詳しくは、各営農センターへご相談ください。